



NEWS

2016 No.298

1

全国整備工場の皆様へNGP 組合員 200 拠点がお届けするお役立ち情報

月号

平成28年 理事長年頭のご挨拶

NGP グループ 30 周年を迎えるに当たり 創設者・大石一彦名誉会長より伝承する 「NGP 三大信条」を自戒しつつ新たな ビジネスモデルへの創造に挑戦します!!

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また旧年中は、弊組合に多大なるご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

私自身は、理事長に就任してからまだ日が浅いものの、ますます厳しい時代に向いつつある中で、その重責感をあらためて観照(本質を見極める、の意)しつつ、新年を迎えております。

私たちNGPグループは、今年30周年を迎えることとなります。創設者である大石一彦名誉顧問より伝承する「NGP三大信条」をグループ全体の理念として、良い時も悪い時も組合員全社の結束と協調をもって今日に至り、自動車リサイクル業界のリーダーとしての自覚を持つまでに成長できたと感じております。NGPグループ創立30周年の記念すべき総会では大石名誉顧問をお迎えし、一致団結し成長しつづけた私たちNGP組合員の姿をご覧いただきたいと願っております。

また今回、NGPグループ30周年誌を発刊することとし、準備を進めております。記念総会では、今までの成長を支えていただいた創設者大石一彦名誉顧問、身を粉にして会員拡大に奔走された諸先輩、品質にこだわりリサイクル部品を生産し続けることでNGPブランドを作り上げた諸氏に対し、敬意と感謝の意を表したいと思っております。

さて、公益財団法人自動車リサイクル促進センター(JARC)より発表される2015年度使用済み自動車引き取り台数は、330万台を下回る予測がなされています。ご承知の通り、第一次消費税率引き上げ後の新車販売低迷、海外への車両流出の高止まり、その

影響が根拠となっております。さらには、軽自動車引き取り台数の増加がスクラップ価格の低迷と相重なり、スクラップ事業者(NGPグループはスクラップ事業者ではありませんが)にとっては致命的な打撃となりつつあります。

つまり、使用済み自動車の減少、軽自動車の増加、スクラップ価格低迷のほか、さらなる物流費の高騰傾向など、厳しい市場環境の1年となることが予測されます。

私は理事長として、今期事業年度テーマである「次世代NGPへの新創造構想の実現」に向けて「創造開来」を再認識し、①リサイクル部品市場拡大、②海外販路の拡大、③素材回収スキームの構築、④次世代人材の育成、からなる4つの課題に対して具体的実践を着実に前進させる決意を固くしております。

この課題に対して私は、研修委員会及び海外戦略プロジェクトを新設すると同時に、理事会議の運営においても報告事項や決議事項の時間を短縮し、戦略討議に時間を多く持てるよう、組織運営の改善をスタートいたしました。

しかしながら、課題を実践し達成するのは、各支部の結束と活動こそが原動力であると考えております。各支部においては支部事業計画に基づき、支部内流通の活性化と、それによる地域マーケットの制覇に創意工夫をもって取り組むよう推進して参ります。

厳しい事業展開を迫られる市場環境、将来的な不透明さ、さらには次世代自動車が日々進化を遂げる時期だからこそ、NGPグループの創意創造力を集結し、新しい実践型ビジネスモデルへチャレンジすることが必要不可欠であると認識しています。言い換えれば、



NGP 日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長

佐藤幸雄

今までのビジネススタイルの延長線では、勝ち組になることはできないということです。

将来の組織成長の継続には、NGPグループ本部、各支部、組合員各社が自らの責務と責任を自覚し、大石名誉顧問が作り上げたビジネスモデル「共有在庫」の原点であるNGP三大信条を自戒しつつ、新しいビジネスモデルへの創造にチャレンジすべきと考えております。

また、ビジネスにおいては信頼関係の構築も重要な要素と考えています。これから降りかかる多くの難題の中には、NGPグループ独自では解決できない事象、事例も含まれることが予測されます。行政、提携組織、取引先、お客様に対しおごることなく、謙虚な姿勢をもって親密な関係を強化していくための努力が不可欠と考えます。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



第9回大阪モーターショーに(株)多田自動車商会が出展 カーオーナーに向けて「廃車王」と NGPリサイクル部品を盛大にアピール

2015年12月4～7日の4日間、インテックス大阪（大阪府大阪市）で第9回大阪モーターショーが開催され、NGP組合員の(株)多田自動車商会（平田武士社長、本社＝兵庫県神戸市）が出展しました。

4年ぶり通算3回目の出展となる多田自動車商会は、2号館の出入り口すぐという絶好の場所に8小間の大きなスペースを確保し、廃車買い取りサイト「廃車王」（<http://www.haishaou.com/>）を前面に押し出しながら、TOKYO FM系列で提供スポンサーを務める全国ネットのラジオ番組「名車ソムリエ」の告知や、同社スタッフによる来場者へのノベルティ配布を行いました。

さらに小間の中央には、ピンクのボディカラーにレストアされた1973年式トヨタ・コロナが展示され、記念撮影する方が後を絶たない人気ぶりでした。このほかにも、トランスミッションやドライブシャフト、オルタネーター、エアコンコンプレッサーなど各種リビルト部品を展示したほか、他組合員の皆様からの協力も得て様々な車種のエンブレムを豊富に取り揃え100円均一で販売して、連日盛況のうちに幕を閉じました。なお、エンブレム販売の売上金は、交通遺児育成基金に全額寄付します。

NGP協同組合関西支部の理事も務める平田社長は、出展の狙いについて「車両買い取りサイトの廃車王を盛大にアピールすることで、部品取り車両の仕入れを強化し、生産性向上とリサイクル部品在庫確保が可能な体制

を整えていきます。同時にNGPリサイクル部品の認知度向上にも努めました。カーオーナーの認知度が高まれば、エコひろばに加盟されている整備・修理工場の皆様によりNGPリサイクル部品のことを説明しやすくなり、さらなる利用促進につながるからです。大阪モーターショーはクルマ好きの方が多く来場される西日本最大級のモーターイベントで、我々の取り組みをアピールするには絶好の場です。今後もカーオーナーに直接訴求できるイベントへ積極的に参加し、リサイクル部品の市場拡大に貢献していきます」と話しました。

このほか同イベントには、自動車メーカーから前回の31ブランドを上回る37ブランド（国産車9、輸入車21、二輪車7）が出展しました。各社の最先端技術が搭載されたコンセプトカーが披露され、東京モーターショーには姿を見せなかったアストンマー



1973年式のトヨタ・コロナと、精力的なPRを行ったキャンペーンガール



トランスミッションやドライブシャフトなど各種リビルト部品を展示



エンブレムの販売は多くの来場者に好評を博した

ティン、マクラレーン、マセラティ、ロータスも出展し話題を集めました。

また、一般出展ブースでは、部品メーカーや自動車関連団体・企業が一押しの製品や技術、取り組みなどをカーオーナーにアピールしていました。また「カスタマイズカーワールド」や「キャンピングカーワールド」などの企画コーナーが用意され、全国各地からご当地グルメやB級グルメが一堂に会する毎回恒例の「絶品！超満腹帝国」では多くの来場者が舌鼓を打ちました。期間中の来場者数は290,776名でした。

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成27年11月：**3,936t**

※一般社団法人 日本自動車工業会が1998年に公開している自動車LCA（ライフサイクルアセスメント）データをベースに、NGPにて1500cc車両の部品重量調査結果からCO₂削減効果参考値を算出しております。



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成27年11月：**9.6t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

第12回自動車リサイクル部品ロジスティック研究会開催

「自動車リサイクル部品推奨梱包マニュアル」の編集方針を議論

自動車リサイクル部品各社・団体及び運送会社などによる「自動車リサイクル部品ロジスティック研究会」(ロジ研)が、2015年11月10日にJARA本部(東京都中央区)で開催されました。

冒頭ではプレステック(株)が、ヘッドライトなど小物用の梱包段ボールを提案しました。梱包材の段ボールにロック用の切れ込みを入れ、さらに商品をラップで巻くことで、商品保護性能を高めながら使用後のゴミ発生量を削減できることを訴求しています。

その後、これまでに選定した各部位の梱包

作業動画をまとめたもののサンプルを視聴しました。ナレーションと字幕スーパーそれぞれの日本語版・英語版を確認した後に意見が交わされた結果、これまでに測定した各コスト及び時間のデータも収録することになりました。

同研究会は次回の会合で、全部位の同会推奨梱包作業動画を編集したものを最終確認し、再修正を経てDVD-ROM化したものを「自動車リサイクル部品推奨梱包マニュアル」として発行し、参加各社・団体がそれぞれの会員に配布して閉会される予定です。



AD 損保「2015年度車物担当者体感研修」を(株)マルトシ青木で開催

車物担当者が自動車リサイクルの基礎や駐車場内事故の損害認定を体得

あいおいニッセイ同和損害保険(株)(以下、AD 損保)の「2015年度車物担当者体感研修」が2015年12月2日、NGP組合員の(株)マルトシ青木(静岡県藤枝市)で開催されました。

車両・対物保険の対象となる自動車事故の事案を処理する車物担当者がよりスムーズに解決し適切な修理費を支払うためには、幅広い知識が必要であるとの考えから、あいおいニッセイ同和損害調査(株)技術アジャスターの企画運営により定期的に行っている研修の一つです。

今回の研修は、AD 損保の車物実務経験6ヵ月以上の若手社員を対象として、事故時にリサイクル部品を活用した修理の提案スキルを身に付けるため、自動車リサイクル部品の理解促進を狙いとして実施しました。

同研修には車物担当者10名と技術アジャ

スター講師陣10名が参加し、自動車保険等級制度改定後の自費修理増加によるリサイクル部品のニーズ拡大など自動車リサイクル業界の近況、事故車引取後の解体処理や抹消登録・届出手続などの事務について講義を受けました。その後、(株)マルトシ青木の説明で工場内を見学し、使用済み自動車を解体する様子やリサイクル部品の生産・在庫管理・梱包といった一連の工程の理解を深め、同時にエアバッグ作動実験も行いました。

また、スリーエムジャパン(株)よりタブリペアと呼ばれるバンパー補修の修理技法が実演で紹介され、さらに実車を使用し駐車場内で想定される衝突事故を再現して、後退時・前進時の内輪差・外輪差を体感し事故原因への理解を深めました。

受講者は同研修により、事故状況と損害内容の正確な把握の重要性を自らの経験として体得しています。



組合員情報変更

| 支部 | 会社名 | 変更内容 | 変更後 | 変更日 |
|----|--------------------|------|------------|----------|
| 九州 | 有限会社オートリサイクルナカシマ福岡 | 会社代表 | 代表取締役 中島邦晃 | 27年12月1日 |

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<http://www.ngp.gr.jp/>

株式会社 NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<http://www.ngp.co.jp/>